

學術研究の聰明化

外
盟
めい

其前提に國立研究會議
總理大臣の管下に創設
學士院幹事櫻井博士の談
した聯合學に遂く學者の數に乏しき爲
國學士院と疣上非常の

士院代表者會議に帝國學士院を代表して櫻井田中館兩理事博士が出席の際の決議に基き今回国内開闢整理大臣監理の下に國立の學術研究會議を組織する事より過日帝國學士院から首先に不經意的に使用され極めて不利の地位にあるに於る。研究上非常の

うして後敷の人となりました。
「接歎の人がなつて見る」勢ひ評
判の人となるには居りません
でした。どうも多くの人の見見る
眼と、囁く口が自分の方にばかり
に向いてゐるやうに思はれて、
お君は、こゝへ来てから度を失
うやうにオドロ^{びく}としてゐま
した。
連れて來られた女中連は、ろん
なことは知らずに喜びで、馬場
や、見物席や、打ち揚がる花火
を見てうわ／＼としてゐました
お君の眼では馬鹿も、見物席も
晴れ空もボーッと體のやう
に見ぬまとした。暫らくして、
「御遊ばせ」
第一番の棧敷から女中の取扱で
もしてゐるやうな女房が一人案
内を乞ふ聲によつて狼狽したの
はお君の方ばかりではありませ
んとした。その召連れて來た女
中連までが不意の案内で驚かさ
れました。
「誰方様で」
お君の方の老女は迎へに出ま
した。
「筑前守内より使に上ました」
「筑前守様の内から」
されでねお君の方の一生はハマと
しました。

「これは、まことに粗末な品でござりますれど、能登守様のたゞ内方にへ差上げ下さいまするやう主人からの言付けでござりまする」
お君の方の一座は、恐縮したり當使ひに來た女中が捧げてゐるの感、荷物の重に酒を添へて来てゐるものらしくありました。
「うれは〜」
此の際、こんな事をされたは有難迷惑の至りなのであります。若しもそれをせねばならぬ禮式があるならば、こちらから先にすむのが、形式一遍の好意でなくして向うから持つて來られて見る、好意を受けないわけには行かないし、また其の好意なるものが、形式一遍の好意でなくして何となく、底氣味の悪い好意として見られ易いのでありました。
「此方から御挨拶に出ねばなりませぬ處を、斯様な結構度下さる物、何ぞお禮を申上げましてお仕いへやう、兎も角、有難い事頂戴いたしまする、後刻改めて御禮に……」
老女は斯う云つて挨拶して、筑前守奥方からの贈り物を受けました。

△注射より安全なツ
●煮汁で舌を焼
▲断行す
自宅療法薬
△ろくキ

御出年 種物其 尚停車

牛中仕事 なさい ギル口

の絶間な
ム拾ひトメト摘む
を仕拂ふなどは
云ふ丈けが野暮です
ありますから
始めての人にも至極便で
素者及タウン家持
oy, California

株式会社
第一同利

學術研究の聯明山其前提に國立研究會議總理大臣の管下に創設
昨年十月倫敦で開催した聯合學會士代表者會議に帝國學士院を代表して櫻井、田中館兩逕理博士が出席の際の決議に基き今回我國總理大臣管理の下に國立の學術研究會議を組織することになり過日帝國學士院から首先に文相に對して該建議書を上申し更に總理會長、櫻井幹事の兩氏中橋文相に會見建議書内容に關し娘々陳述した。一方學士院では明日委員會を開き其會議の内容に就て具體案の擬定を重ね七月十二日の總會議に議了する旨になつてゐる。右に就き櫻井鈴二博士は語る「本會議は昨年の倫敦會議で聯合各國で學術研究會議創設をして右の各國會議に於て討論の下に万國學術研究會議を合して各國の研究機關の連絡統一を計ると云ふ事を決議したのであるが、對的には現時國內に割據する各種の學術研究機關の連絡統一を圖り科學の應用に關する研究促進を目的に生れるのである。由來我國は歐米先進國である。敵國管理令出でより利に傾すい仲買の競争猛烈

●調査の敵國の財產

●議員として總務部と學術研究部の二大部門に分ち、總務部は會議の行政機關で萬國學術會議の連絡と倫敦、巴里その他一般學識經驗ある人達を糾合して各國に科學事務官を特派して相互の研究通信に任せしむること云つた仕事をする。學術部は名譽の如上の性質を持つて居るのであるが、對的には現時國內に割據する各種の學術研究機關の連絡統一を計ると云ふ事を決議したのである。敵國管理令出でより利に傾すい仲買の競争猛烈

●議員として總務部と學術研究部の二大部門に分ち、總務部は會議の行政機關で萬國學術會議の連絡と倫敦、巴里その他一般學識經驗ある人達を糾合して各國に科學事務官を特派して相互の研究通信に任せしむること云つた仕事をする。學術部は名譽の如上の性質を持つて居るのであるが、對的には現時國內に割據する各種の學術研究機關の連絡統一を圖り科學の應用に關する研究促進を目的に生れるのである。由來我國は歐米先進國である。敵國管理令出でより利に傾すい仲買の競争猛烈

のまで今にも政府が賣り拂ふ氣を廻し頗る價格の競合を行つて居る。一方内務省の特殊財産管理局が一方で長谷、石原兩事務官があつて居る。では法律、平和條約を尊重し管理財産の見本を出し、から處分の方法を定め、もとよりは節省通りにから處分の方法を定め、ても管理適用の三府廿縣の調査結果は、たが故に財産は千六七百万圓の概算を突破し、その二倍にも三倍にもならうと想像される。一面の調査の進捗によるが、これとて程度問題で頗る難しかしい事である。續して債務關係になると、農商務省、運輸、内務、外務各省の委事官も調査委員となり、近づいて重要問題に駆せ参ると、いよいよ上に就き、長谷事務官は語る。「財産の管理は、地方長官に委任してあるが、管理令に依つて在留、獨逸人の身分を參照しその現常生活に要する衣服器具、家具、生活費は、

△在軍人の指導
　全國から東京へ招集
　◆軍事思想と新智識を
　　◆普及するの目的にて
田中陸相の主催に依りて生れた
る帝國中央青年團は今回軍事思想
及び新智識普及の下に全國各
師團の在郷軍人會指導者
約二百名を 東京に集め七月
十日より十日間軍事講習會を開
催するに決した
七月十三日風東京砲兵工廠を
見學し小銃機關砲飛行機後
勤機其他陸軍の新式兵器の
作に就いて實地見學をなし同
十五日には横須賀鎮守府海軍工
廠長、浦工場、造船飛行場等を
見學す
これに就いて陸軍當局は語る各
地方の在郷軍人なるものは從來
の習慣をして現役軍人の階級を
其儘適用し指導者も官位勳等のみ
高きものを其仕に當らしめて居
るが往々にして指導者は却て被
導者より軍事
△智識を缺く居るといふ實狀
である此點を矯正するに就いて
今回の計畫は極めて當を得て居
るは田中陸相の發案であつ
て將來は此方針を進めて在郷軍
人會の指導者を智識本位たらし
め在郷軍人の自覺に就て飛行機
他の兵器製作所の建設或は義
財産の處分に移るので、之は多
分公入で行はれようが諸種な
調査の關係から恐らく一年半以
後でなければ實施されまい
問題の獨逸大使館は平和克復の
今日結局國際上國交の恢復を
挾つて獨逸政府の手に渡す事と
ならうと思ふ

府の動搖を來し陳外交總理の辭職に次で徐總統も再び辭職を意を申出でたりとの說ありテ徐總統にして辭職せんか代く時局を收拾し得べき人物なし海及び天津を根據地とする過半は此機に乘じて如何なる事態を生ずるに當てて我政府は未だ確乎たる空しく時の推移を待つゝに之を憂慮し居れる由なれば公使今同の見會は單に侯の會議は自然此等の問題に止まらずに我政府は未だ確乎たるべきと想像するに難かざるの状態なるを見て公使は單に之を憂慮し居れる由なれば公使今同の見會は單に侯の會議は自然此等の問題に止まらずに我政府は未だ確乎たるものなりとして政界の注目を惹き居れり

告豫行發錄所住米日 度年〇二九一

年々末に發行しなる
吉米住所録
は出來の豫定に候
御記入御送附被
庄所錄卷末の用等
座候、狀袋名宛御
アドレス御切り
波下度候、尙本年
國内及故國各地へ
廣告の効力
希望の方は

本年は發行期
月を早め十二
月間住所氏名掲載
迄に本社住所
宛左記用箋に
下度尙便宜一九
年を用ゐられても
認め方御面倒の
とり状袋へ御貼
は購讀者増加せ
多數配本可致候
力は從來より比し
增加可致候間
日迄必ず原稿
揃へ御注文願

日約一ヶ月上旬を御希望の
御關係九敷は際にはつり付上載み付
一分宜はるよる上はりつゝ付上載み付
上御取候

——港桑——

日米新聞社

一九二〇年米住所錄

例年々末に發行したる
日本住所録 本年は發行期日約二
ヶ月を早め十二月上旬
以て出來の豫定に候間住所氏名掲載御希望
の方は
十月十五日 迄に本社住所録係
宛左記用箋に分り
易く御記入御送附被下度尙便宜一九一九
年住所録卷末の用箋を用ゐられても宜敷
御座候 状袋名宛御認め方御面倒の際は
左のアドレス御切りとり状袋へ御貼りつけ
被下度候 尚本年は購讀者増加せる上
米國內及故國各地へ多數配本可致候付
廣告の効力 増加は從來より更ふ
御希望の方は迄必ず原稿御取

中華書局
THE JAPANESE AMERICAN
650 Ellis St.,
San Francisco, Calif.

上候
御注文願
揃へ

——港桑—— **日米新聞社**

●酒葡萄始末

卷之三

十一 めて 五仙 仙人 近々 アン 先生 昨日 更に

は敢て憂ふる人の足らすとの事
引つ搔く囁み付く
△巡回一人目に會はざる
日午後ブロード祥食店にて
クネー林といふ筋の強大的な
が亂暴を働いた仕方がないの
巡回を呼んだ。マクイーン
いふ巡回は飛ばしに解され
大音に狂ひ廻はれるマクネーリ
何を云ひさよ巡回の足を蹶
ばした、巡回は此一トモで戰
力失ひ歿收容病院に搬込され
た、代つて相手にたつオ
ヤー巡査も引つ搔かれ噛みの
れ頭中は引づ搔痕の傷に血が
みシャツは所々裂き破れ散
目に會はされただが頭取うち
てタラーク精神病院へ一時送
届けた、此男は二年前にも此
で巡回を手舌指しめたこと
ある魔術者ちや共な
●ビーチ天井知らず
▲今に一鼎廿五仙篇
先月三十五仙箱なりしビーチ
昨今一鼎に騰り此處數日内に
もするに一鼎半仙までに墨雲
仙にまで再び進みりトメトは
仙下カリグレープは特等一斤
五仙廿芊枚目下多量の春梅あ
アツブリカット期は稍々終了
近づきたるため第一鼎二十
仙にまで再び進みりトメトは
仙下カリグレープは特等一斤
一斤十五仙セロリは一斤日本
めて市場に現はれしが一ボンナ
十五仙といふ相場なり

は七月十八日ヨーノルル市淨土寺開教院第一講堂に於て開會せし。出席者は立川真致、佐山順慶、吉良良雄、中川大仙、西山豊定、太田秀山、宮本文哲、宇田龍道、伊丹嘉光、山田然舟、桑谷安音の諸師にて。久家恭光、森山安音の諸師にて。一同着席す。や間、教使長、ハカラク教會堂立川真教師を奉り、開會の辭を述べ。▲久家恭光博士同時に左の如き議事規則を定めた。教使長は番外員となりたるを以て。他の出席員中より布哇時、ハカラク教會堂立川真教師を長に選舉し直ちに議事に移り、外なる久家監督は開會の導領頭脳である。同宗の布教方針を確定する所必要ある所以によく解説し左の原案を提出す。

布教方針に關する宣言決議案
文草案

本開教院は本宗布教の究極目的として在留同胞永世の福利を増進するにあり、顧つて本縣在留同胞現下の狀況を洞察する時は混沌として何等の氣脈關係なきものゝ如隨うてが爲めに、内、外的統轄の爲めにも、對外的的、對内の統轄の爲めにも、何等統制的機構をなさず、斯くの如く、猥りに民族的恥辱を異國に曝すものにして、一に東洋文明を形成したる所が祖先の努力と遺志に背くもののみならず、延いて次代同胞の将来の活路を塞ぐに至るべく、眞に愛慮に堪ざるもの所之を爲めに、所要端として、司書よりもが出席者は立川真致、佐山順慶、吉良良雄、中川大仙、西山豊定、太田秀山、宮本文哲、宇田龍道、伊丹嘉光、山田然舟、桑谷安音の諸師にて。一同着席す。や間、教使長、ハカラク教會堂立川真教師を奉り、開會の辭を述べ。▲久家恭光博士同時に左の如き議事規則を定めた。教使長は番外員となりたるを以て。他の出席員中より布哇時、ハカラク教會堂立川真教師を長に選舉し直ちに議事に移り、外なる久家監督は開會の導領頭脳である。同宗の布教方針を確定する所必要ある所以によく解説し左の原案を提出す。

時計屋
業者を以て
貿易
本邊所
務所
應付
ル
一一四
Cal.
行
Cal.

THE RUHL-GOLD
315-319 E. Weber
書類、算盤、文具
須藤久世
33 E. Market St.
須市蓄元
シングア裁縫
307 S. Center St.
佐伊伊
兩官產
公認
電話
南エンドラード街一
電話
食料雜農產
貨一切農產
電話
佐
華村
シムンセン
ガーナ
御用サムにノゼリ何時
専用自動車二の設備
佐市三二一
石垣
バーランド
自動車
1ストレ
電池
小泉
東北第四
Burnd Und

九院社店元寶店



瀧の水

(八) 倉富砂邱

小松の蔭

(四)

志津子が、只頗り想らめて

傾向してゐる間に、益雄は学校

で教はつた通りにた解儀をした

「今日で一七日の満願だな」

益雄は親しげな調子で益雄に

云つた。最も知らぬ振をしても

かならない。志津子は極り悪さ

に顔を下げた。

「今日も暑さうですね」

眞澄もいくらか胸を騒がせて

ゐる。其の證據に、言葉の調子

が變つた。

「益雄さん、君達は實際感心だ

よ。人は知るまい、世間では君

達の精神は誰も知るまいが、偶

然にも僕は君達が毎朝斯うして

人の寢てゐる中から山へ登つて

油に打たれて、お父さんが程までし

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

「おま～、どうとなるよ

道を曲らうとして、益雄が振

返つた時、姉の姿は見らなか

つた。眞澄はブン／＼先へ行く

が、益雄は其處に立つて姉の來

るのを待つてゐた。何をしてる

んだらうと、待遠しい氣になつ

てゐるこ、間もなく志津子の姿

が、小松の間から現はれた。益

雄は、姉の側に來た時は、眞澄

は最も見らなかつた。

</